

産業建設委員会記録

令和6年5月17日(金)

10時01分～12時10分

全員協議会室

【委員】川上委員長、田畑副委員長

村木委員、大谷委員、小川委員、佐々木委員、牛尾委員

【議長・委員外議員】

【執行部】

(産業経済部) 佐々木産業経済部長、久佐産業経済部参事、大屋商工労働課長、
大谷産業振興課長(広島事務所長)、佐々木ふるさと寄附推進室長、
佐々木農林振興課長、永見水産振興課長

(都市建設部) 倉本都市建設部長、中谷建設企画課長

(金城支所) 市原金城支所長、河内産業建設課長

(三隅支所) 西谷三隅支所長、斎藤産業建設課長

【事務局】 大下書記

1 執行部報告事項

- (1) 令和7年度国県重点要望事項について 【該当課】
- (2) 令和5年度萩・石見空港の状況について 【商工労働課】
- (3) 第4弾プレミアム付「はまだ応援チケット」の販売について 【商工労働課】
- (4) 令和5年度 はまだ産業振興機構活動実績について 【産業振興課】
- (5) 浜田港の概況について 【産業振興課】
- (6) 令和5年度 ふるさと寄附の実績について 【ふるさと寄附推進室】
- (7) 令和5年度 広島事務所活動実績について 【広島事務所】
- (8) 令和5年農業産出額について 【農林振興課】
- (9) その他
(配布物)・漁業別水揚げについて 【水産振興課】

2 所管事務調査

- (1) 山陰浜田港公設市場の財務状況について 【水産振興課】
- (2) かなぎウエスタンライディングパークの財務状況について 【金城支所産業建設課】
- (3) リフレパークきんたの里の財務状況について 【金城支所産業建設課】
- (4) 浜田市三隅特産品展示販売センターの財務状況について 【三隅支所産業建設課】

3 その他

- 4 視察報告書について(委員間で協議)

【別紙会議録のとおり】

【会議録】

[10 時 01 分 開議]

○川上委員長

それでは、ただいま出席委員は7名で定足数に達しているので、ただちに委員会を開催する。

1 執行部報告事項

(1) 令和7年度国県重点要望事項について

○川上委員長

執行部から説明をお願いします。

○産業経済部長

(以下、資料を基に説明)

○建設企画課長

(以下、資料を基に説明)

○産業振興課長

(以下、資料を基に説明)

○建設企画課長

(以下、資料を基に説明)

○川上委員長

委員から質疑はあるか。

○大谷委員

知事要望5番目、重要港湾浜田港についてだが、(1)に「早期岸壁整備等港湾機能の強化」とあるが、具体的にどういうことを含んでいるか。

○建設企画課長

港に大型船舶が入れるように整備を推進していただくものになる。

○都市建設部長

今の岸壁では大型コンテナ船のための水深が足りないため、岸壁を沖に伸ばすのか下を掘るのか、いろいろ手法はあるが整備を進めてもらって大型化に対応できるようにお願いしますものである。

○大谷委員

県の港湾整備計画の中では、今ある岸壁を北側へ伸ばす形で岸壁を広げる計画があるように認識しているが、そのことも含んでいるということによろしいか。

○都市建設部長

そのとおりである。

○田畑副委員長

進行を交代する。

○川上委員長

県は今年度、投資的経費が約24%減額となっている。このことを理解して要望されているか。

○都市建設部長

引き続きの要望が多いので、そういったところは予算確保しているところも含めてお願いするものなので、今年度の予算がこれくらいというのは特に要望事項には含まれておらず、引き続き要望をお願いしている。

○川上委員長

現在議会は地域井戸端会を各地で行っており、そこでいろいろな要望が出ている。特に建設関係、それも市単独というのはなかなか難しい部分があるので、どうしても国県を経由するものが出てくると思う。その際、今年度は予算的に減っているが、今要望しているのだと言っても良いか。

○都市建設部長

県の予算はそういった状況かもしれないが、市としては引き続き要望が必要なものは要望するので、そのようにおっしゃって結構だと思う。

○田畑副委員長

進行を交代する。

○川上委員長

ほかにはないので次へ進む。

(2) 令和5年度萩・石見空港の状況について

○川上委員長

商工労働課長。

○商工労働課長

(以下、資料を基に説明)

○川上委員長

委員から質疑はあるか。

○牛尾委員

コロナ禍前は担当課長が校長会や教頭会に出て営業して、相当良いムードで来ていたのだが、コロナ禍に入って立ち往生した。かなり回復基調だとは思いますが、今年度あたりは校長会や教頭会で担当課長からお願いしているのか。

○商工労働課長

今は校長会や教頭会などの全体の会でお問い合わせするよりは、各学校へ訪問して話を聞くなどして利用促進のお願い等をしている。

○牛尾委員

席数を増やそうと思えば大規模校がこの事業に乗ってくれないとなかなか伸ばしにくい。15万くらい乗ってくれないと将来的な継続は難しいと書いていたと思うが、そうではないのか。

○商工労働課長

そのとおりである。

○大谷委員

月ごとの推移については経年比較もされているが、上り便や下り便の利用や、1便目と2便目の差など細かな状況分析はなされているか。なされているなら、どのような傾向か。

○商工労働課長

往復2便それぞれ利用実績等は協議会で押さえている。大まかに状況を言うと、萩・石見から東京へ行く夕方便は非常に多い。その代わり東京からこちらへ朝一に来る便については利用が少ない。また、当然ながらゴールデンウィークや夏休みの状況等については、伸びるものは伸びているが1月、2月が特に団体等を含めて移動が少ない。こういった冬場の利用をいかに増やしていくかが課題であり、令和5年度については協議会の予算等に余裕があり、急きょ1月から2月の間は利用助成金を少し上乗せしたりしながら、1月、2月に利用してもらう取組等もさせてもらった。

○大谷委員

確かに益田市周辺では夕方にレンタカーが集まっている。どうも米子に降りてレンタカーを借りて山陰道を西に下る、あるいは津和野まで行って帰られるように見受けられる。そうした動きの中で、浜田にも足を止めてもらうような発信はなされているか。

○商工労働課長

浜田にできるだけ来てもらえるような取組は観光等々も含めて周知などを行っている。今協議会全体でもそうだが、特に関東へ向けたPR、地下鉄の画像が流れるところや、関東ローカルテレビでもPRをして、何とかそれぞれの市にも足を運んでいただくような取組はしている。

○大谷委員

米子だとチャーター便の発着もたまにある。萩・石見空港におけるチャーター便の動きはどうか。

○商工労働課長

詳細までは把握してないが、たまにチャーター便が萩・石見空港にも来て、実際の定刻より発着が送れるという状況は伺っている。

○大谷委員

出雲空港だとフジドリームエアが入り出している。需要があれば会社はかなり柔軟に動くところがあるので、新しい会社等は販路拡大もあってチャーター便の動きも柔軟かと思う。利用数を増やすという観点の中でいろいろな模索をしてもらいたい。

また、飛行場なので飛行機の発着が増えることに意味がある。軽飛行機の発着について、協議会での検討はあるか。

○商工労働課長

軽飛行機の発着は私も状況を聞いていないので、今把握していない。

○大谷委員

他の空港へ出ていくと、そういう機材をお持ちの方は結構その形で観光に動かれ

る。そうした方々が萩・石見空港に着陸して機体を置いて周辺を観光する、そういった機能としては非常に弱い。空港事務所そのものも、そうしたことをしっかり受け入れようという雰囲気は感じなかった。いずれにせよ利用促進するという観点の中で、協議会においてもこうした定期便だけでなく、民間の軽飛行機利用の促進も促していくべきではないか、それが地域の活性化にもつながるのではないかと思うが、その辺の考えはいかがか。

○商工労働課長

言われるように、そうした利用を促進していくのも必要だと思う。協議会もそういったことで利用してもらえるよう営業等もされていると伺っている。軽飛行機の利用云々などどこまで細かく営業されているかは私も把握してないが、近々空港の担当課長会議があるので、どういう状況か話を聞いておこうと思う。

○佐々木委員

利用される方の目的は。大まかにはビジネスや観光だと思うが、目的の把握を少しはされているか。

○商工労働課長

詳細に確認する方法はないので正直分からないところがある。うちの補助金の中や、修学旅行などといった把握はできる。空港の利用全体でいくと、ほぼ観光や団体旅行という把握はできるし、ビジネスの利用もある程度は把握できるとは聞いている。

○佐々木委員

その辺がある程度分かってくるといろいろな仕掛けができる可能性もあると感じた。支援金の話だが、今年度から江津市が新たに幹事市に加入したとある。旅客数が覚書に下回る場合は江津市も負担するとのこと。江津市にも何かしらメリットがあるから加入されたのだろうが、何か状況を把握されているか。

○商工労働課長

細かいところは正直分からないが、これまでも利用促進拡大協議会から働き掛けをしてきた。今後2便化に向けては政策コンテストで、2便が維持できるかを国等に訴え掛けていくといった話が今年度からまた出てくる。そうした利用促進を拡大していく上でも広域的に取り組んでいるので、江津市にも入ってもらえないかと相談した上で江津市が加入されたと聞いている。

○佐々木委員

覚書はこの説明によると令和6年3月29日に三者による覚書を更新しているとある。今までもそういった負担の話があったのだろうが、覚書は今後の状況を踏まえて随時更新しながらやっていく流れなのか。

○商工労働課長

リスク負担分の話なら、1席何千円掛ける人数ということで頭は決まっている。それを市町村でそれぞれの割合に応じて負担をすることになっているので、例えば全体で1億だとしたら、1億が決まっている中で今回江津市が入られたので4、5%は江津市分といったように、その内訳を変更する形で負担金を決めている。

この覚書は毎年更新するので、次回はまた翌年度に負担の覚書を結んでいく流れでこれまでやってきている。

○川上委員長

ほかにはないか。なければ進行を交代する。

○田畑副委員長

川上委員長。

○川上委員長

現在行われている地域井戸端会の中で、萩・石見空港について一つ意見があった。萩・石見空港を起点とする定期観光バスを考えてはいかがかという話だった。なかなか難しい部分があるかと思うが、一案として考えていただくようお願いしたいのだからどうか。

○商工労働課長

その話はまた具体的に聞かせていただき、協議会などで伝えてどういった対応ができるか話してみたい。

○川上委員長

ぜひとも話をしてもらいたい。

○田畑副委員長

進行を交代する。

(3) 第4弾プレミアム付「はまだ応援チケット」の販売について

○川上委員長

商工労働課長。

○商工労働課長

(以下、資料を基に説明)

○川上委員長

委員から質疑はあるか。

○牛尾委員

もともと今は地元資本のスーパーは本当に限られる。市民からするともう少し広がらないか。市内の全キヌヤで使えるようにしたほうが良いのでは。

もう1点。前回の最終販売において残数が少ない中、購入列の関係で問題があったが、あの問題の対策は今回どのようにされるか。

○商工労働課長

キヌヤ全域でという話もあった。もともと地元には本店等がある事業所にチケットを利用していただける環境を用意しての事業者支援のため、応援券と共通券という形で分けて発行させてもらっていた。確かにキヌヤは全域使えたらという話もあったのだが、そうするとそもそも共通券と地元応援券とに分ける必要がないのではないかという議論等も事務局内で出てきた。特に今回、いわゆる旧那賀郡エリアでスーパーが1件ないし2件程度しかないところで共通券だけではという声をいただいたこともあり、

事務局メンバーである石央商工会エリアにおいてそういった配慮をするということに進めさせてもらった。確かにキヌヤに相談した際も、いろいろ意見が出るのでキヌヤ全体で使えるようにという意見をいただいたが、近隣にスーパーがあるところについてはできるだけ地元応援券を使ってもらうよう整理させてもらった。

2点目の最終販売の対応だが、商工会議所も体制等を進められるとのことである。今回は未確定ではあるが予定としては、例えば少なくなったときに前は1か所に集めて販売したが、3次販売で売り切ってもらった形で対応したい。4次販売まで残ったらそこで終了としてはどうかということでも最終調整している。

○牛尾委員

キヌヤの件だが、浅井町の1件と蛭子町の1件しか地元スーパーはない。エリア的に考えると、近隣から離れた高齢者にとってはなかなか地元応援券を使えるところがない。例えば旧一番街の中のキヌヤを対象にしたなら近隣の方は喜ばれる。エリアを考えたら国府だけ対象とするのはなぜだという声が出るのでは。

もともと旧一番街がキヌヤと合併して社員を全員継続雇用していることも考えると、そういう選択肢があっても良いのでは。エリアを考えたときに、消費エリアはそんなに広くない。高齢化社会で言えば、そういうことを考えると、もう少し市民サービスの考えが必要だったのではないかという感想を持った。

次の、残数が少なくなってからの最終販売だが、今回会議所も頑張って目標加盟店600店ある。心配なのは、前は観光協会では今回は会議所がやるわけだが、同じ失敗だけはどうか避けていかなければいけない。市民サービスのために市がやっているのに、クレームがあってトップがもうやりたくないと言われたら困る。会議所任せではなくしっかり絡んでもらい、同じことは絶対しないようにしてもらいたい。

○商工労働課長

最後に言われた前の対応がクレームにつながった件だが、当然我々も商工会議所含めて繰り返さぬように、連携して話し合いながら進めている。これからも相談等しながら進めたい。

○大谷委員

そういうことがないようにということであるなら、最終のチラシを配付する中には、最後の終わり部分の対応については明記があるということでもよろしいか。

○商工労働課長

チラシというのは購入券もしくは店舗案内のチラシという意味だろうか。最終のチラシ案を校正中であり、かつそういうところまで記載があるかどうかはまだ確認できてない。どこまで対応を載せられるかも含めて、会議所に確認したい。

○大谷委員

確認した結果明記があるということでも良いか。

○商工労働課長

できるだけ分かりやすくなるように会議所とは話をしようと思っているが、そこまで明記されるかどうかの判断は、また相談した上でとしたい。

○大谷委員

課長だけの判断でできないのは分かるが、いずれにせよ混乱がないようにするためには、あらかじめ「こういうときにはこうする」というように前提を公表しておく必要がある。そうであれば皆納得されるが、前回のように変更があると皆あわてるし、予想外の行動を取られて受入れもできず混乱になるので、前提を明記しておくことが大切だと思う。この点は明確になるよう努めてもらいたい。

○川上委員長

ほかにあるか。

(「なし」という声あり)

(4) 令和5年度 はまだ産業振興機構活動実績について

○川上委員長

産業振興課長。

○産業振興課長

(以下、資料を基に説明)

○川上委員長

委員から質疑はあるか。

○大谷委員

地元製造製品の割合は分かるか。金額ベースでも品数ベースでも良い。

○産業振興課長

これらの金額については全て地元産品ということで計上している。

○大谷委員

ということは、製造者を見たら浜田市内ということか。

○産業振興課長

はまだ産業振興機構は、浜田市内の製造業を支援しているので、言われるとおおり浜田産品と解釈してもらってよろしいかと思う。

○大谷委員

くどいようだが、それは確認が取れているのか。

○産業振興課長

こちらの成約金額等の実績については、販路先事業者あるいは市内製造事業者に実績を企業単位で伺っているもので、間違いなく浜田市内の事業者ということで計上している。

○大谷委員

この前産業建設委員会で西いなば気楽里へ視察に行った際、そこではとにかくオリジナル産品にこだわっておられ、他の地域での製造品はそこに置かない、1週間に1回チェックされて、そうしたものが販売してあれば引き取ってもらう。そのようにしてかなり地元のオリジナル化をしておられた。こだわった観光客は製造元が地元か他県かを見て、他県品となると置いていくことが大半である。そういった傾向があるの

で、地元であることがPRできるような、しっかり表に分かりやすくなるような取組をしてもらいたい。

○川上委員長

視察先で感じた問題なので、しっかり努めてもらいたい。この件についてほかにあるか。

○牛尾委員

産業振興機構ができて随分年数が経過したが、金額はたかだか1億8千万円程度にしか上がらない。もっと4億、5億といった金額が上がってもおかしくないと思うのだが、原因は何か。

○産業振興課長

営業を続けていくのは切りがないことで、浜田製品の営業は常に行っているのだが、やはり営業を継続しないと取扱いがなくなる。はまだ産業振興機構は主に関東や関西の主要な小売業、卸売業に卸しているのので、ずっと継続して産品を置いていただけないのが現状である。営業は続けていきたい。

○牛尾委員

なかなか比較しにくいのだが、例えばふるさと納税でも人気の商品は決まっている。そういうものをメインにもっと営業されると、もっと売上げが伸びてもおかしくないという素人感覚がある。人件費に対する売上げが、費用対効果がといったことは言わないが、なぜこれほど伸びが悪いのか。対前年比でいえばわずか1,400万円程度である。国内流通するヒット商品がないということであれば、逆にそういうヒット商品を作る仕掛けを産業振興機構でやるといったことが必要だと思う。過去10年くらいを見るとずっとそういう流れで来ているので、このままではいけないと思うのだがどうか。

○産業振興課長

言われるとおり金額は平行線ということで、このままではいけないと思っている。販路拡大もそうだが、一方で新商品開発や事業者とのマッチングなどほかの支援も並行して行っている。浜田製品の販路開拓が機構の活動の全てではないが、ふるさと寄附の返礼品の人気商品なども見据えて関東・関西にPRしていきたい。

○川上委員長

いずれにせよ、しっかり頑張ってもらいたい。この件についてほかにはないか。

○佐々木委員

新規も一定数成約されているのだろうし、既存の事業者についても回らないとなかなか継続してもらえないという話があった。継続してもらうことも大事だし新規も大事、両方だと思う。既存事業者の契約がなくなる頻度や率などの状況は分かるか。

○産業振興課長

毎年販路先の事業者にはヒアリングしているので、なくなった商品があることは把握できる状況である。

○佐々木委員

既存事業者が続けてもらうために訪問されると思うが、訪問してもやめている事業者もおられる。その辺の状況は数を見れば分かるのだろうが、この数年のある程度の状況は。一定程度は続けて、残念ながら少しやめているところもあるのか。

○産業振興課長

商品を10年以上扱ってもらうことは少ない状況である。販路先も担当者が数年単位で代わるので、私どもも営業はするが一番効果的なのは先方のバイヤーが代わった際に浜田にお越しいただき、改めて事業者とひざを突き合わせて商談するなり、商品改良のアドバイスをいただいたりする取組にも力を入れている。

○佐々木委員

バイヤーが代わると当然その人の影響があるとのことなので、いわば既存の店といえどもバイヤーが代われば新規という感覚もあると思う。その辺は数字には出てこないだろう。苦勞もよく分かるが、なるべく既存の店に続けてもらうような取組をしっかりと願います。

○川上委員長

ほかにないか。

(「なし」という声あり)

(5) 浜田港の概況について

○川上委員長

産業振興課長。

○産業振興課長

(以下、資料を基に説明)

○川上委員長

委員から質疑はあるか。

○牛尾委員

先般クルーズ船が入って会議所から中身の報告があったのだが、午後3時には帰らなければならないとのことで滞留時間が非常に窮屈で、なかなか営業もしにくいのだと聞いた。クルーズ船会社の意向が当然あると思うが、もう少し時間がないと。着船して出雲まで往復したら、ほぼ何もできない時間になるのではないかという見解が結構あった。セレモニーをするにもお金が掛かるのに、タイトな時間だと地元が恩恵を被ることができない。クルーズ会社の意向で難しいというだけでなく、もっと何とかならないのか。

○産業振興課長

4月30日ににっぽん丸が寄港した際は言われるとおり出雲大社コースもあり、3時出港ぎりぎりといったところもある。はまだ産業振興機構がクルーズ寄港に向けてクルーズ会社へ営業を掛けているので、もう少し滞在していただくようお願いしながら営業するよう働き掛けていきたい。

○牛尾委員

振興会にも行って、もう少し頑張らなければいけないのではないかと言った。産業経済部全体でもっと考えてもらわないと、例えば地元業者が神楽を見せながらランチをふるまうツアーをやるにしても、時間が窮屈だと計画しにくい。急すぎて最初からやる気にならない業者もある。もったいないと思うので、その辺は何とかできるよう願います。

○産業経済部長

今回のにっぽん丸は課長が申したとおり、出雲大社コース、津和野コース、広島高原コースなど三つあった。ほかにも石見銀山やアクアスのコースがあり、その二つはその後石見神楽を見るコースも含めている。クルーズ客船誘致は、誘致しても決まるのは2年3年先なので、浜田市のコースを紹介する中で少しでも長く滞在してもらって浜田にお金が落ちるように。

今回、港から無料シャトルバスでお魚市場へ送ることもやっていた。浜田にお金が落ちるようなコースも誘致に向けて会社に説明して、少しでも長く滞在していただけるよう浜田港振興会とも一緒になって努力していきたい。

○大谷委員

認識を深めるために聞きたいのだが、輸入品の中に無機化合物とプラスチックとあるが、具体的にどういうものでどこに持って行って活用しているかが分かれば教えてほしい。

○産業振興課長

税関支署が公表されていないので推測になるが、無機化合物は江津事業者が輸入されているのではないかと推測される。プラスチックは益田や浜田市内の事業者、例えば製造した製品の包装に使うために輸入されていると聞いている。詳しいことが公表されていないため、あくまで浜田税関支署が統計資料として出したものなので、正しくは我々も把握していないことをご理解いただきたい。

○川上委員長

ほかにあるか。

(「なし」という声あり)

1時間を超えたので、ここで暫時休憩する。

[11時 04分 休憩]

[11時 15分 再開]

○川上委員長

委員会を再開する。

(6) 令和5年度 ふるさと寄附の実績について

○川上委員長

ふるさと寄附推進室長。

○ふるさと寄附推進室長

(以下、資料を基に説明)

○川上委員長

委員から質疑はあるか。

(「なし」という声あり)

(7) 令和5年度 広島事務所活動実績について

○川上委員長

広島事務所長。

○広島事務所長

(以下、資料を基に説明)

○川上委員長

委員から質疑はあるか。

○村木委員

4番の観光誘客はどういった条件で上がる数字なのか。

○広島事務所長

広島PRセンターが誘客を行うのだが、誘客した旅行者、予約人数実績を積み上げた数字となっている。

○産業経済部長

広島PRセンターを通して浜田市に誘客や宿泊した数を積み上げている。

○佐々木委員

令和5年はかなり観光誘客が増えている。これはコロナ前に戻ったと認識して良いのか。

○広島事務所長

コロナ前に戻りつつある。行動制限がなくなったことで、広島PRセンター職員自身が営業訪問できたため増加になった。

○佐々木委員

まだコロナ前までは至っていないとのことだが、そもそもある程度目標を立てて活動していると思う。例えば令和5年度は目標に対してどうだったのか。

○広島事務所長

数値目標はロードマップ等で公表している。令和5年度の目標誘客数は2,500人としていたが、実際は2,481人で目標達成には至らなかった。引き続き令和6年度も、まず2,500人を超えることを目標にしてPR活動を行っていきたい。

○佐々木委員

2,500人は誘客人数の目標だと思う。施設利用数や宿泊などが分かれば願います。

○広島事務所長

施設利用数と宿泊者数について具体的な数値は、ロードマップにて。

○産業経済部長

ロードマップで誘客数と合宿誘致宿泊数、これについては1,000泊か1,050泊という数値がある。施設利用延べ数とは、例えば一人が広島から浜田へ行ってアクアス、温泉、ゴルフの3施設を利用したら3とカウントするので、施設利用数については具体的な目標数値はない。

○広島事務所長

目標については誘客人数が2,500人と、合宿誘致ということで1,000泊を目標に立てている。

○小川委員

企業誘致の関係だが、過去4年間を含めて成立企業数ゼロで、大変厳しい状況なのだというのは数字を見ただけでも分かる。例えば令和5年に9社訪問しているが、その9社はこういった職種を中心に回っているのか。現状を聞かせてほしい。

○広島事務所長

浜田市の企業誘致については、製造業とソフト産業に力を入れている。主には島根県、また山陰合同銀行とは包括協定を結んでいるので、一緒になって広島市内のソフト産業系の事業者を訪問し、一時浜田へ来てもらい、大学、高校、物件なども見てもらった。現在も引き続き営業しているが、誘致の実現には至ってない。

○小川委員

I T人材が条件なのかもしれないが、なかなか成立に至らない原因について担当課はどう分析しているか。

○広島事務所長

企業立地奨励金などの支援策については、県下を見ても浜田市は十分に政策を立てていると思う。広島の事業者は逆にBCPの観点から、災害などのリスク分散のために日本海側で広島に近い浜田市への誘致を検討されているので、そういう営業をしているのだが、雇用の関係などを心配されるのだが、広島事務所としても大学や高校を案内して、そういう不安を払しょくする活動をしている。

○小川委員

その観点からポートセールスの関係も若干補足説明をしてもらいたい。

○広島事務所長

ポートセールスに関する令和5年度の新たな取組としては、まず組合に訪問して会員企業の物流の実態について情報収集したが、やはり物流網がしっかりしていて、浜田港の利用についてはヒアリングにとどまる結果となった。

○大谷委員

大口の利用がなくなったことで金額ベースでも下がったと説明されたように受けとめたが、どういう職種でその要因が分かっているなら聞かせてほしい。

○広島事務所長

二つの原因のいずれも業種としては、山陰方面の小売店となっている。昨年販路先にて浜田フェアをしなかった。今年度は明日にでも浜田フェアを13店舗で1週間やるのだが、そういった取組で継続的につながりを持っていくことも必要だと感じた。

昨年はそういった取組ができなかった分もあったのかと分析している。

○川上委員長

ほかにあるか。

(「なし」という声あり)

(8) 令和5年農業産出額について

○川上委員長

農林振興課長。

○農林振興課長

(以下、資料を基に説明)

○川上委員長

委員から質疑はあるか。

○佐々木委員

トマトが減になった大きな要因はTCトマトだと説明された。経営改善中とのことだが、水の問題が今まであり、その辺の改善も含めて何か規模が少なくなったなど、その辺の話を話せる範囲でもう少し分かりやすく聞かせてほしい。

○農林振興課長

トマトについてはハウスを20棟から10棟にしたと言ったが、5月から出荷するものについては8棟で計算し、7月からは14棟にと徐々に戻して生産を行う予定にしている。

また、委員が言われたように水の問題がかなり大きいとは思っているが、現在液肥を何とか合うものに改良してコストを下げている。先週も事業者と話をした際に井戸の問題を尋ねたのだが、今のところ水道でやっている。井戸水は成分が全然違うので急に切り替えるのは難しい。もし使えるようであれば使いたいのので、また実証実験などを考えながら、井戸水が使えるよう我々も考えている。研究を続けていく。

○佐々木委員

最終的には井戸水でないと経費がかさんで難しいのだろうと思う。それに行き着くまでは現状の水道水を使うとのこと。市からの補助はしばらく行うことになるのか。

○農林振興課長

補助については今年度半年分計上しているのだが、それは1年遅れなので、昨年の4月から9月分までのものである。今年度分についての補助はないが、経営改善中であり収益も少しずつ良くなっているとは聞いているので、様子を見ながら必要な支援をしていきたい。

○小川委員

有機野菜について伺いたい。できれば有機野菜の産出額は少しずつでも上がっていく方向を期待したいのだが、年度ごとの数字を見ると少し下がることもある。産出額が伸びない原因が聞きたい。

○農林振興課長

有機野菜は地元で昔からされていて、顧客も抱えている。単価等にもよると思う

が、生産者もしっかりしているので伸びるとは思っている。昨年4月25日にオーガニックビレッジ宣言を行い、有機農場や生産者を増やしていきたいと考えている。

○川上委員長

ほかにあるか。

(「なし」という声あり)

(9) その他

○川上委員長

配布物が1件ある。漁業別水揚げについてだが、資料配布のみとしているので各自確認してほしい。ほかに委員から何かあるか。

(「なし」という声あり)

執行部から報告事項はあるか。

(「なし」という声あり)

以上で執行部からの報告事項は終わった。ここで5月24日の全員協議会へ提出し説明すべきものを決定したい。執行部の意向を確認したい。

○商工労働課長

報告事項はない。

○川上委員長

執行部の意向は報告事項なしとのことだが、意向のとおりでよろしいか。

(「異議なし」という声あり)

ではこれでよろしく願います。

2 所管事務調査

(1) 山陰浜田港公設市場の財務状況について

○川上委員長

このことについては、旭町のまんてんの件を受け、気にしておきたい指定管理施設について現状把握するため調査するものである。今回4つの施設について、委員会から担当部署に依頼している。資料が出ているが、執行部から補足説明があるか。

○水産振興課長

(以下、資料を基に説明)

○川上委員長

委員から質疑はあるか。なければ進行を交代してほしい。

○田畑副委員長

川上委員長。

○川上委員長

今年度から若干黒字とのことである。黒字であればいくらか浜田市にバックがあっても良いと思うがいかがか。

○水産振興課長

2期目のプロポーザルを通して、令和6年度から第一ビルに引き続きお願いすることになった。その際、令和6年度から5年間にわたって納付金を納めるという提案をいただいている。1年目は10万円、2、3、4年目は20万円、5年目は30万円の合計100万円を納付いただく協定を結んでいる。

○川上委員長

利益が上がっているのであれば、少なくとも賃料程度の納付があっても良い気がするのだが、その点についてはいかがか。

○水産振興課長

ここでどうするとはなかなか言えないが、もちろん利益を上げていただければ施設運営はできない。一義的には浜田の水産物のPR、販売拠点、また水産物だけでなく浜田産品のPR・販売拠点、そしてにぎわい創出が目的にある。そのためには利益もしっかり上げてもらいながら施設を継続していきたい思いがある。そういったことを全体的に考慮したい。市とすれば利益が上がった分のなるべく多くを納付いただきたい思いはあるが、相手方がいるので第一ビルサービスとも話をさせてもらいたい。

○川上委員長

5年間トータルで100万円。利益から考えればとても足りない。もう協定を結んでいるので今さらいかんともしがたいが、どこの指定管理施設も少なくとも利益の半分、昨年視察に行った先は、利益の半分というのが指定管理料を超えていた。民間の活力を活用するのであれば、その活力から生まれたものについては若干でも返していただくことを考えてもらいたい。ぜひ検討の上、協議してほしい。

○田畑副委員長

進行を交代する。

○川上委員長

ほかにあるか。

(「なし」という声あり)

(2) かなぎウエスタンライディングパークの財務状況について

○川上委員長

金城支所産業建設課長。

○金城支所産業建設課長

(以下、資料を基に説明)

○川上委員長

委員から質疑はあるか。

(「なし」という声あり)

(3) リフレパークきんたの里の財務状況について

○川上委員長

金城支所産業建設課長。

○金城支所産業建設課長

(以下、資料を基に説明)

○川上委員長

委員から質疑はあるか。

○佐々木委員

純資産が約1千万円マイナスになっていて、これだけ見ると債務超過になる。損益計算書では雑収入で1千万円計上されて調整されている。その辺の説明をお願いします。

○金城支所産業建設課長

純資産に関係する説明としては、各指定管理施設、また施設ごとに部門別に決算を分けて貸借対照表を作っておられる。市の指定管理施設を受ける際は、当然純資産はゼロからスタートし、数年管理する中で収支のマイナスがずっと続いていけばここがマイナスとなり、今年の黒字を足しても累計で1千万円弱の累積赤字を抱えた状況になっていると聞いている。これは毎月の経営検討会議の中でもヒアリングしたのだが、大きかったのは令和2年、コロナの補助金等をいただいても700万円ほどの赤字を出した。これはきんたの里の利用者ではなく事業グループ全体に言えることで、現状令和4年については黒字を400万円弱出しているのでポテンシャルとしては収支バランスが取れて、しかも千畳苑と客や送迎のやり取り、職員の融通等連携しているので、きんたの里は安定的に運営できると思うとのことである。

雑収入については中身を把握していないが、モニタリングレポートの中では雇用調整助成金などいろいろな会社の補助を受けており、これは想像だが国等の支援金が入っているのではないかと思っている。

○佐々木委員

累積収支はバランスが取れているとの説明だったが、この数字だけ見るとバランスが取れているという判断にはなりにくい。こういう書類を出される際はその辺の説明が少し必要かと思うので、今後検討してもらいたい。

結局きんたの里も千畳苑も、特に経営としては問題がないということで良いか。

○金城支所産業建設課長

モニタリングレポートについては純資産の部の記載はなく、あくまで単年度収支を記載しており、令和2、3、4年の実績を並べ収支を記載している。参考のために申し上げますと、令和2年が700万円の赤字、令和3年が330万円の赤字、令和4年が450万円の黒字と記載している。これを累計で差し引きすると純資産がマイナスで、事業グループがトータルで抱えた赤字になる。私が先ほど「収支のバランスが取れている」と言ったのは、コロナのような災害級のものが起きなかった場合、普通に営業していれば収支バランスが取れているという意味で触れた。

○川上委員長

ほかにあるか。

(「なし」という声あり)

(4) 浜田市三隅特産品展示販売センターの財務状況について

○川上委員長

三隅支所産業建設課長。

○三隅支所産業建設課長

(以下、資料を基に説明)

○川上委員長

委員から質疑はあるか。

○佐々木委員

3か年の決算状況が出ている。先ほど課長からは、設備投資などいろいろな計画しながら取り組んでおられるという話があった。3年目の損益決算書は損失になっているが、それなりの目的を持ちながらやっている。役員報酬というのが一般管理費の中にあり、それが損失の出た令和5年度に少し上がっているようである。その辺の状況が説明できればお願いします。

○三隅支所産業建設課長

この役員報酬は社長に対してのものだが、社長は一従業員として先頭に立って施設の管理運営に携わっている。賃金を支払うことができないため、役員報酬として道の駅に携わる部分の案分で計上されている。

○佐々木委員

計上は良いのだが、3か年目に上がっている理由を知りたい。

○三隅支所産業建設課長

令和5年度に上がっている理由までは聞いていない。

○川上委員長

現況をつかまれてないのだと思う。いずれにせよ何年間かの利益を積み上げて新たな改修などに使っていく、計画的な運営をされていると捉えたほうが良いのではと思う。先般道の駅に視察に行ったが、トップの働き方がいかに影響しているかが見えてきた気がするがどうだろうか。

○牛尾委員

それにしても社長は本社でも給料を取っておられるだろう。イベントのときに現場に社長が立って仕事しておられるので、すごいと思う。ただ、指定管理料が一定金額出ている中で、役員報酬をこの程度増やすのはなかなかびんと来ない。

○三隅支所産業建設課長

指定管理を始めた当初は駅長をスタッフとして採用していたのだが、その方がすぐやめられた状況もあり、その代わりではないが、社長が運営に携わっておられるという意味で役員報酬を支払っている。

○佐々木委員

今話を聞いて、上げられた理由が何となく見えてきた。人が不在な中、経営者として社長が前面に立って頑張っておられる、その報酬で少し上げたというニュアン

スで捉えた。

○大谷委員

1年目、2年目から黒字化に向けて努力され、3年目は設備投資という話だったと思う。参考までに、どのような設備投資をして施設改善、あるいは利用者に向けての改善をしたのか教えてほしい。

○三隅支所産業建設課長

具体的には、大きなものとしてうどん屋のテーブルやいすなどを昨年度更新した。ほかには、カフェの厨房にエアコンを設置した。

○大谷委員

先ほど紹介した西いなば気楽里はPOSシステムを入れて、全体の経営管理が可視化できるようなシステムにしていた。初期投資として3千万円も掛けたと聞いている。近年は会計システム等で簡便な状態を作ると利用しやすい若者がおられるので、利用者に向けての改善点等があるのか。

○三隅支所産業建設課長

期の途中でそういった改善をされたかどうかは把握していないが、直接的に客の利便性が上がるようなところはないのではないかと思います。

○大谷委員

いずれにせよ指定管理内での活動について、市民の負託を受けながらこうして質問しているので、回答ができるよう今後も把握に努めてもらいたい。

○川上委員長

ほかにあるか。

(「なし」という声あり)

3 その他

○川上委員長

その他、執行部から何かあるか。

(「なし」という声あり)

委員から何かあるか。

(「なし」という声あり)

ないようなので、ここで執行部は退席されて構わない。

(執行部退席)

4 視察報告書について (委員間で協議)

○川上委員長

前回の委員会で視察報告の考察を考えるに当たり、皆の所感から特筆すべきものを上げてもらい、それを基に考察を作成した。すでに見てもらっているとは思いますが、意見があればお願いします。特段ないようなら、これで流させてもらおうがよろしいか。

(「はい」という声あり)

それでは、これを報告書として議長へ提出する。この報告書を基に村木委員が視察レポートを作成されるので、それはまた皆で確認する。6月17日定例会議初日の全員協議会で発表する予定なのでよろしくお願いする。

視察レポートの確認についてはLINE WORKSで流して良いか、それとも再度委員会を開いたほうが良いか。

(「LINE WORKSで良い」という声あり)

それでは、村木委員が作成した視察レポートについては、LINE WORKSで流して皆の承認を得る形にさせていただく。

以上で全ての議題が終了した。以上で産業建設委員会を終了する。

[12 時 10 分 閉議]

浜田市議会委員会条例第65条の規定により、ここに委員会記録を作成する。

産業建設委員会委員長 川 上 幾 雄